

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



着花管理

果樹林産センター 信方浩志郎

着花管理

近年、樹ごとに花のばらつきが大きくなってきているため、樹の状態にあった管理を行いましょう。

《着花の多い樹》

有葉花摘蕾を行い来年の結果母枝を確保します。目安として、長さ5センチ以上または新葉5枚以上の有葉花を摘蕾しましょう。

《着花の少ない樹》

花と新梢との養分の奪い合いで生理落果は助長します。着果させたい花の近くの新梢を芽かき、あるいは摘芯する事で果実に分配される養分を増やして生理落果を抑制します。

葉面散布

開花期前から1次生理落果が始まる前までに、尿素500倍を病害虫防除剤に混用し3回程度散布します。着花の多い樹は樹勢維持や回復を、着花の少ない樹は早期の新梢の緑化による生理落果を軽減します。

病害虫防除

開花期は、果実のキズの原因となる灰色カビ病と訪花昆虫の防除時期です。灰色カビ病は、落弁期の降雨により花弁が幼果に付着することで発病し、訪花昆虫は、開花期に花粉や蜜を求めて飛来します。開花時期がばらつきやすい青島温州は、五分咲き期と落弁期に防除をしましょう。

・五分咲き期 灰色カビ病 フロンサイドSC

2500倍(30日-1回)

訪花昆虫 モスピランSL液剤

3000倍(14日-3日)

・落弁期 灰色カビ病・そうか病 ナリアWDG

2000倍(14日-3回)

開花後のかん水

着花量や樹勢にもよりますが、5月の降水量が少ないと土壌乾燥により生理落果が助長されます。開花後10〜15日程度まとまった雨が降らない場合は、10a当たり3t程度を目安にかん水しましょう。